

常任委員会の審査から

各委員会における主な
質疑・討論内容について

議案第106号 相馬郡小高町、同郡鹿島町及び原町市の配置分合に伴う地域自治区の設置等に関する協議により定められた事項を変更する条例制定について

質疑 地域自治区の設置について自治法第202条の4との解釈は。

答弁 合併しても、なくても自治区を設けることができる主旨で南相馬市では自治区を設定した。

賛成討論 特に鹿島区等においては、住民の意思と違った方向での結論がでてくる。

つまり、タラソについて住民から管理費2,500万円までつけてやれという声がまったくありません。

それが逆の方向で自治区の要望にそった形だということとで管理費が加えられてくるということに見られるように、このあり方については、区長の存在そのものも含めて十分検討していく必要があることを申し上げて本条例に賛成。

議案第107号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について

質疑 障がい程度判定に係る会議時間、委員の構成は。

答弁 平均2時間を想定し、社会福祉士、精神保健福祉士、保健師等。

議案第122号 平成18年度南相馬市一般会計補正予算について

● 地方交付税について

質疑 17年度との比較は。

答弁 地方財政計画で5・9%減、合併自治体の特別措置という特殊要因があるものの減額する。

質疑 具体的に申し上げた投資可能額を洗い出しながらの実施計画をふまえた555億円の見直しの日程は。

答弁 最終的には、来年3月議会に6年程度の実施計画を示すことが出来ると思う。

質疑 新市建設計画そのものの見直しについて、日程的なものを考えていないか。

答弁 新市計画は10年のスパンで、現在新市の総合計画の見直しを行っている。それと連動した中で精査することになると考えている。

質疑 今年度の特別交付金は5,000万円と捉えてよいのか。

答弁 人件費の動向、特殊事情により若干余地はあるものとする。

● 諸収入について

質疑 新請戸川地区排水事業の今後の財政負担は。

答弁 事業主体が国、調査が平成18年度から20年度。21年から25年まで総事業費50億。国が66・6%、県が17%、双葉、浪江、南相馬市で11・4%、受益者が5%で南相馬市は約2億2,800万円程度の負担。

質疑 どの程度の面積で、事業の概要は。

答弁 昭和49年着工した国営事業で整備された農業水利。ダムの本体設備と幹線用排水路の国営分。面積3,717・6ha、10aあたり6,725円。

● 総務費のうち一般管理費について

質疑 職員の給与基準は。

答弁 昇給期間短縮の数字は補正後の人数で、給与明細は1月1日現在の数字。今回は4月1日の数字。級別職員数は5月1日。

質疑 職員給与費の平均は。

答弁 627人の平均で783万円。臨時嘱託職員等については臨時的に雇うので、賃金支弁雇用管理規定に基づき雇用管理を行っている。

質疑 合併に基づき昇給期間が短縮して高いほうに合わせたのか。

答弁 合併協議に基づく対応であり、三市町の給与は一元化を図り、3年から5年かけ調整する方針。

● 税務総務費について

質疑 徴収嘱託職員は何人か。

答弁 原町区3名、小高区、鹿島区でそれぞれ1名。

質疑 給与体系は。

答弁 旧原町市嘱託職員と同額とする。

● 選挙管理委員会費について

質疑 市議選の日程は。

答弁 公式には選挙管理委員会が協議される。

● 統計調査総務費について

質疑 統計調査員の変化は。

答弁 前後の2名ですので増減はない。

● 予備費について

質疑 議会開会中に予備費対応ということとは。

答弁 緊急なもののについては対応することが大原則。開会中は極力控えるべき。

反対討論 財政見通しに大きく関わる四大事業をめぐって異常な事態。補正予算を通すことは、これまでの経過を認めることになるので反対。

賛成討論 緊急不可欠なものであり、補助の内示や人事異動に関わるもので賛成。

採択の結果 原案のとおり可決。

請願第8号 出資法の上限金利の引き下げ等、「出資の受入れ、預り金及び金利等の取り締まりに関する法律」の改正を求める意見書の提出について

審査の結果 採択。



▲大柿ダム（請戸川水系事業）

議案第108号 南相馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について

【質疑】 按分率の比較で大きな差があるが、この分析は。

【答弁】 統一することになると高い方に持っていく。旧小高町が下がる割合が大きい。旧原町市の税率が中間であり、格差解消をすることでの按分率である。

【賛成討論】 均一課税とすることで問題点があり、原町区で増えた部分について理解を求めることを市民に知らせることが必要。国保税のあり方を確認しながら進めるべきと意見を付して賛成。

議案第109号 南相馬市保育園条例の一部を改正する条例制定について

【質疑】 職員の配置は、また0歳児の対応は。

【答弁】 基準により配置、現在正職員、嘱託、パート職員を合わせて22人で運営、定員も増やすことから3人を増やし25人で対応、0歳児は15人定員で考えている。

議案第114号 南相馬市国民保護協議会条例制定について

議案第115号 南相馬市国民保護対策本部及び南相馬市緊急

対処事態対策本部条例制定について

ともに質疑及び討論が行われた後、原案可決となったが、少数意見の留保が認められた。

【反対討論】 武力攻撃の災害事態の発生を想定した避難訓練などを通じて、有事における国民統制が狙いであると考ええる。市民の命、財産を守る上では、今の地域防災計画を完全なものにしていく事が何より大切と思うので反対。

【賛成討論】 北朝鮮、中東問題などもあり、「平時に乱を忘れるな」という相馬の武士道の主旨に則って賛成。

議案第118号 平成17年度小高町立病院事業会計決算認定について

【質疑】 一時借入金がないようにだが現在もないのか。他会計からの現状と見通しは。また病院関係の技術職の関係で交流も一部始まっており、号棒給も違うようだが実態と今後の解消策は。

【答弁】 一時借入れは現在もない。他会計からもない。院内で給与面の格差があった。昇格基準等も違っており、合併により給料表が一本になったこともあり、直近上位の給料表に格付けし、昇格基準等の違い

もあることから5年をかけ調整していく方針である。

【質疑】 23年までに療養型の国の見直しに伴い、介護病棟が廃止になる方向で進んでいる。経営的には介護病棟があるために経営が楽との解釈である。将来的に廃止の方向にあるが内部検討は。

【答弁】 介護型が全廃となった場合に老健施設、介護センター等福祉施設に転換と言われている。今後設置状況を把握しながら検討する。

【賛成討論】 病院経営、改善点について指摘を受けたが努力をしていただき、医療費を削減するという中で予防介護、予防医療の方向に向くことは事実なので今後の病院経営について一定程度のことを勘案しながら方向付けを検討することの意見を付して賛成。

議案第119号 平成17年度原町市病院事業会計決算認定について

【質疑】 医療機器の購入方法は。

【答弁】 医療機器の選定は院内で購入希望調査を行う。病院医療機器購入選定委員会があり、委員会の中で最終的に判断し、それに従って入札の手続、予定価格などを設定し見積り、入札等を行っている。

【質疑】 手術件数、手術後の平均的入院日数、医療事故の件数は。

【答弁】 手術件数999件、平均入院日数は18日程度。昨年の医療事故は17件、内容は診療部関係で3件、看護部関係で13件、事務部関係で1件である。

【賛成討論】 地域医療機関として入院を中心とする急性期医療、緊急医療等の充実を図り地域医療連携室を開設し開放型病床を開設し地域医療として十分に果たしている。経営面でも収益的収入でも純利益が出ています。今後医師不足、高度医療機器の更新なども考え職員が一体となり経営に取り組むことの意見を付して賛成。

議案第120号 平成17年度原町市訪問介護事業会計決算認定について

【質疑】 合併して旧2町の利用者はどう変っているか。療養型の病床が削減され、自宅療養が増えてくると思うが。

【答弁】 合併しても利用者が増えることはない。地区に事業所があるので従来通りと思う。国でもできるだけ在宅でみるといった方針が打ち出されている。18年になって医療保険でのターミナルケアが

増えてきている。
議案第122号 平成18年度南相馬市一般会計補正予算について

【質疑】 住基カードの現状は。

【答弁】 交付枚数314枚、交付率0・43%、県の状況は10,921枚で交付率0・52%である。

【質疑】 子育て支援センター管理運営体制は。

【答弁】 原町区のあづま保育園を参考に子育てサロン週5日間、午前・午後に分けて運営育児相談は月曜から土曜日で電話、面接相談で対応する。

【反対討論】 補正予算編成に当たり基本的な問題がある。市長の公約の部分と実際とがへだたりがあり、担当部局で相談や実態についてのレクチャーを受ける必要、なんら行動がない。地域に対する振興策が見当たらないことで反対。

【賛成討論】 保育園事業に当たり、鹿島保育園の保育管理事業費、併設する子育て支援センター管理事業であり待機児童の解消や若い母親の子育ての悩みや相談に支援で少子化時代を迎え市民の期待と要望が高い事業から賛成。

【採決の結果】 原案のとおり可決。

議案第110号 南相馬市鹿島商工会館条例を廃止する条例制定について

質疑 鹿島商工会との話し合いで、廃止することによる問題は、十分解決されているのか。

答弁 鹿島商工会と十分に理解しながら進めており、今後の維持管理についても支障はないとのことである。

議案第111号 南相馬市農村公園設置条例の一部を改正する条例制定について

質疑 農村公園は鹿島区7箇所、小高区1箇所を管理委託制度で運用していくのか。

答弁 鹿島区の場合は行政区の公園であるので、日常管理の費用、例えば、公園電気料・トイレの汲み取り料は、今まで通り行政区で負担してもらう。小高区は海岸にあり不特定多数のものが利用するので今まで通り区役所の負担となる。

議案第112号 南相馬市西部コミュニティセンター設置および管理に関する条例を廃止する条例制定について

質疑 貸与は無償なのか、有償なのか、耐用年数との関わり及び、土地の登記について

てどうなっているか。

答弁 無償であり維持管理についても現行通り行政区がすべて負担していく。土地は住環境整備事業の中で、非農用地設定をしており市で管理していく。

議案第113号 南相馬市真野川鮭ふ化場設置および管理に関する条例を廃止する条例制定について

質疑 築場が壊れた場合のふ化場の維持管理および組合の運用についてどう考えていくのか。

答弁 直接鮭増殖組合で管理している。鮭ふ化場は、国の指導もあり、農林水産省の補助で作っているので災害等が起きた時は、行政側が支援することになる。

議案第116号 平成17年度小高町水道事業会計決算認定について

質疑 有収率が下がった原因は。

答弁 節水意識の普及により有水量が落ちたことと、下水道工事、機械故障による排水量が増えたためである。

賛成討論 資本的支出、建設改良費の大きな伸びがある。施設全般に老朽化しているこ

とをきちんと、今後の政策の中に反映させることを付して賛成。

議案第117号 平成17年度原町市水道事業会計決算認定について

質疑 給水原価について他市との比較は。

答弁 県内10市の中で中から下の位置にある。

質疑 水量確保の取り組みは。

答弁 将来の水源確保に向け余剰水等の調査をしている。

賛成討論 今期決算は、4月～12月分で変則ではあるが将来的に安心・安全な水の供給のための供給源の確保政策を新年度予算に向けて対応していくべきものと意見を付して賛成。

議案第121号 平成17年度原町市工業用水道事業会計決算認定について

質疑 再生水について、新規契約をしないとのことだが実態状況は。

答弁 建設省の補助事業で丸三製紙一社に供給するというところで再生水事業を始めた。今の施設が、丸三製紙にしか供給できないので非常に苦慮している。

議案第127号 平成17年度南相馬市水道事業会計補正予算について

質疑 小高水道の老朽化に對しての実施計画と長期的な水道行政の状況をどうとらえているのか。

答弁 県からも小高区の水道に対しても整備取組みが遅れているという指摘があった。30%の地域が未給水地域であるので今後どうするか計画を作る。

議案第122号 平成18年度南相馬市一般会計補正予算について

質疑 大豆の転作規模拡大および団地化の促進をどう定着させていくのか。

答弁 現在取り組んでいる小高の大井・塚原、原町の高・泉地区については収穫量が安定し、品質も一定程度確保され、作業体系が確立されている。これらを参考にしながら他の地域も推進を図っていく。

質疑 国・県の補助事業に對して市独自の補助事業および農業行政をどう考えるべきか。

答弁 市の財政状況を鑑みながら頑張りたいとの事であり、平成19年度から始まる事業について、良好な経営にな

るようにする。

質疑 サーフィンを通じての南相馬市誕生記念事業としてこの大会に對しての交流人口をどう考えているのか。

答弁 世界大会の受け入れであるので、多方面から誘客できる。地域の特産品の出店および地域の観光をPRしながら施策を考えたい。

質疑 住宅費、滞納者3人に要した訴訟の経費、滞納額の総額はいくらか。

答弁 裁判に要する費用は1人当たり25万円程度で、滞納額は3人合わせて115万7,400円である。

反対討論 本定例会に提出するはずだった四大事業をめぐる議論の過程から見ても最優先の課題であったはず。金場地区に進出予定の大型ショッピングセンター進出にも地元事業者の声を聞こうともせず、農家、農業に価格保証もない政策を容認できない。

賛成討論 主に人事異動等に関する人件費であり賛成。

採決の結果 原案のとおり可決。



議案第122号 南相馬市一般会計補正予算について

● 幼保連携に向けて

質疑 幼保連携パイオニア事業のなかで、地域協議会による先進地研修及び保育士の幼稚園訪問研修会、幼稚園教諭の保育園訪問研修会や幼保相互理解を深める合同研修会を具体的にどう進めて行くのか。さらに保護者への対応については。

答弁 上真野幼稚園と上真野保育園において、3ヶ年事業として取り組んでいる。県事業であり、今年で2年目となっている。17年度は幼保一元化を視野に入れた園運営の研究。18年度は指導内容や方法、教育環境の研究をテーマに取り組み予定。まだ詳細は決まっていないが、幼稚園長と保育園長で案を作成しながら進めて行く。研修先については東京の二葉すこやか園を計画。保護者への対応については、話していない。今後鹿島幼保連携協議会のなかで、幼稚園の保護者会長、保育園の会長、民生委員の会長、区長会会長等で検討して行く。

質疑 原町区、小高区の対応については。

している。教育・保育時間の違いはあるものの幼保一元的な活動はしているものと思っている。幼稚園と保育所の一体化に向けて、今年度中に委員会を開催し検討する。委員の構成については、幼稚園と保育所の職員を、最終的に保護者、民間の幼稚園、保育所も加えて検討して行く。

● 図書館の充実に向けて

質疑 図書館建設費のなかで2004年度旧原町市図書館整備基本計画に基づいて進めているのか。サービスの内容に感動したが、進んだ自治体を目指すところがあるが、本の冊数、地域図書館を含めての職員配置と、地域図書館の充実についての取り組みは。鹿島区の図書館を鹿島駅前に移動できないか。

答弁 基本的には基本計画に基づいて進めている。オーブン当初から、すべてスタート出来る訳ではないが、3年スパンで、この事業の成果をあげて行くことを検討しており、進んだ自治体を目指している。蔵書計画については毎年3,000万円程度のなかで、17,000冊と20,000冊を想定。職員配置については、新図書館整備計画に記載してあるが、可能かどうか

検討している。人件費の抑制を計り最低限の人員で対応したい。開館は朝9時から夜8時、職員は8時間体制であり、重複する時間をパート、ボランティアを活用し総配置数を抑制して行く。図書購入にあたっては一般会計予算の1%と1・3%が理想だが、実績を積みながら進めて行く。小高、鹿島区の図書館機能を發揮するには4万冊の蔵書が要求されるが、現状の面積では困難。補足する為に当面、中央図書館から蔵書の入替え等によって品揃えを豊富にし地区の方々利用に、不利のないように努めて行くのが第一次の目標。第二次としては、利用実態を踏まえて、施設の改修、移転等について打



▲上真野幼稚園（なわとび）

診して行く。鹿島区の図書館を鹿島駅前に移動することは難しい。

反対討論 鹿島区の図書予算が、昨年並みに明示されていないから、本案に反対。

賛成討論 人事異動に伴う人件費や緊急な補正という事で理解する。幼保連携事業について、幼稚園、保育所の所管が文部科学省と厚生労働省に、法令も学校教育法と児童福祉法と異なっている。保育教育のあり方について、認定こども園の説明もありましたが、教育委員会と福祉部門との庁内連携を図りながら取り

幼稚園と保育所の比較

【機能・役割】

幼稚園は、満3才から小学校就学までの幼児に教育保育所は、保護者の就労等により保育に欠ける乳児（0才より）又は幼児等を保育する児童施設である。3～5才児の教育内容は幼稚園と同じ。

【1日の教育・保育時間】

幼稚園は4時間を標準保育所は8時間を原則

【長期休業日】

幼稚園は夏休み、春休みなど長期休業日がある。保

育所は長期休業日はない。

【保護者の負担】

幼稚園は設置者の定める授業料を納める。南相馬市では4,500円。保育所は、所得によって変わってきます。

【所管】

幼稚園は文部科学省保育所は厚生労働省

◎今幼稚園と保育園を一元化する研究が進んでおります。南相馬市では、上真野幼稚園と保育所で、研究がすすめられております。

組まれるよう意見を付して賛成。
採決の結果 原案のとおり可決。



▲上真野保育所（プール開き）